

会議議事録

会議名	2022年度第2回看護分野教育課程編成委員会
開催日時	2023年2月7日(火) 15:00~17:00
場所	Zoom開催
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：大沼扶久子(公益社団法人東京都看護協会西部地区理事)、小林映子(社会医療法人河北医療財団河北総合病院看護部長) (計2名)</p> <p>② 本校委員：橋本正樹(校長)、伊東由美(看護課学科長)、宮下明久(事務局参与)、岡本隆行(看護科教員)、渡邊明子(看護科教員) (計5名)</p> <p>③ 事務局：安里良美(計1名)</p> <p style="text-align: right;">(合計8名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：□資料1：2022年度第1回看護分野教育課程編成委員会議事録 資料2：前回委員会以降の主な経過報告 資料3：2022年度実習アンケート結果 資料4：潜在的カリキュラムを「可視化した授業への取り組み</p>
委員長	伊東学科長
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、3年間にわたるコロナ禍の中での学校運営は、未来に向けて変化を推し進める絶好の機会でもあった。本日の次第の中の潜在的カリキュラムを「可視化した授業」への取り組みという項目は、これまでの教育の当たり前についてもう一度考えてみようという趣旨ではないかと思う。そういった覚悟で、教職員の協力の下、よりよい職業人教育の形をつくり上げることができればと考えている。</p> <p>看護師の養成教育においては、特に実習教育の場面でまだしばらく判断の難しい問題が発生することがあるかと思う。委員の皆様には、看護分野の仕事の現在と将来に関する専門家の視点からの貴重なご意見、本校看護科の教育やカリキュラム等へのご提言をいただきたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認(資料1)</p> <p>委員長より前回議事録(案)について諮ったところ、特段の意見はなく、一部の誤字を訂正の上、保存・公開することが確認された。</p> <p>3. 前回委員会以降の主な経過報告(資料2)(説明者：宮下事務局参与)</p> <p>資料2に基づき説明が行われ、確認、了承された。補足説明・質疑・意見の詳細は別紙のとおり。</p> <p>4. 2022年度の活動報告</p> <p>①2022年度実習アンケート結果について(資料3)(説明者：渡邊教員)</p> <p>担当より資料3に基づき説明が行われ、確認、了承された。</p>

5. 2022年度の教育活動と学科運営について

①潜在的カリキュラムを「可視化した授業」への取り組み（資料4）（説明者：伊東学科長）

資料4に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明・質疑・意見の詳細は別紙のとおり。

6. 次回日程、その他

・2023年度第1回委員会

①2023年度の教育活動と学科運営の進め方説明

②2023年度カリキュラム案へのご意見伺い 他

次回の日程は、2023年7月18日（火）、15時～17時とし、予定している議題は上記

①と②であることが確認、了承された。

以上

2022 年度第 1 回看護分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 前回委員会以降の主な経過報告（資料 2）

○伊東学科長より、以下の補足説明があった。

- ・就職については、看護師国家試験が終わってから就職活動に入る人が数名いる。
- ・アンケートは、回答率向上のため 1 コマ分の時間を取って実施している。
- ・学生募集については、全体として外国人留学生の受験が多かった。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>専門学校は学生募集に苦勞していると聞いているが、本校ではどうか。</p> <p>最近の学生や新人看護師を見ていると、学びの積み重ねができていないと感じる。</p> <p>新人研修の場面を見て、きちんと根柢を持って看護を実践することが大切になると感じた。実習や臨床場面での先輩との関わり方も重要だと思う。</p> <p>外国人の受入れは、学びの輪が広がり、得られるものもたくさんあるのでよいと思う。</p>	<p>応募は減ってくると思うので、今後は外国人も含め、看護師を目指す人は全て受け入れて教育する方向に変えていかなければならないと思っている。</p> <p>学び方については、コロナ禍で実習に行けなかったこともあり、積み重ねの部分は難しくなっている。</p> <p>最近の学生はコスパやタイパ（タイムパフォーマンス）を重視する傾向にあり、学習にかける時間も惜しむところがある。</p> <p>卒業を控えた学生に一人ずつ面談をしているが、この学年は、コロナ禍の中で守り過ぎたのか、あまり困ったことにぶつかった経験がないように感じる。臨床に出て壁にぶち当たったり、困ることも出てくると思うが、乗り越えていってほしい。</p> <p>2 年生になっても調べる力がない学生が多い。実際に図書室に足を運び、手取り足取り活用の仕方を教えることを通して、学生の情報取得を支援することの必要性を感じた。</p> <p>患者主体という意識を醸成すること、実習の中で働くナースの姿からその行動の理由や根柢を学び、専門職業人として応用する力を学校で身につけさせることが大事なポイントだと思う。</p>

4. 2022年度の活動報告

①2022年度実習アンケート結果について（資料3）

○渡邊教員より、資料3に基づき以下の説明が行われた。

- ・5月30日から人数制限をしながら臨地実習を開始したが、それ以外は学内で実習をした。コロナ禍で学内実習が多かった2021年度と比較すると、患者との関係や他の医療従事者とのコミュニケーションの部分で前期、後期とも4.0以上となり改善してきている。後期は、「母性」「小児」「在宅」などが5.0に近い形で改善している。
- ・「看護技術の到達度」「経験力」の部分では、コロナ前と比べると全体的に低い数値が出ている。看護技術を経験することができないと、付随する内容も習得できないので、実習室での指導や臨床での看護技術の経験を少しでも増やしていきたい。

5. 2022年の教育活動と学科運営について

①潜在的カリキュラムを「可視化した授業」への取り組み（資料4）

○伊東学科長より、資料4に基づき以下の説明が行われた。

- ・看護師養成所のカリキュラムの改定に伴い、本校では指定規則より7単位多い109単位としてカリキュラムを組み、時間数は従来より90時間増えた。1単位15時間の科目や45時間の実習を増やす形で単位を計算している。
- ・看護教育では、3,015時間の「正課教育」と「課外の時間」がある。課外の時間は「準正課教育」とも言われ、具体的には入学式、卒業式、学園祭、体育祭などの行事や学年ガイダンス、ホームルームなどがある。「課外」とはなっているが、そこで培われる能力は看護実践能力の育成に欠かせないため、単位数には関係ないが全ての学生を対象としている。これが「潜在的カリキュラム」である。
- ・例えば、いじめの問題は態度の育成につながる場所であり、教科だけではなかなか教えることができない。そういうものを効果的に教えるために潜在的カリキュラムは意味がある。特に、①他人の立場に立って、②コミュニケーション能力、③解決方法を見いだすという部分は看護学校では非常に重要であり、必要な能力かと思う。
- ・今回のカリキュラムの改正をきっかけに、「キャリアデザイン」という科目を置き、意味のあるものはきちんと授業として取り組んで教えていきたいと考えている。
- ・今回、一番見直しを図りたいのは戴帽式である。キャップレスやジェンダーレス、練習時間の確保の困難さ、学生の年齢幅による受け止め方の違いなどを考慮しつつ、学生主体の活動につながるように変更したい。
- ・具体的には、2年生の「キャリアデザインⅡ」の中に位置づけ、開催時期は「基礎看護学実習」が終わり「各論実習」が始まる前の秋に変更する。そこで、改めて看護観を見直し、それを発表する機会としたい。
- ・学生主体という面では、教員からの祝辞・祝福だけではなく、1年生は先輩の2年生に対して、3年生は後輩の2年生に対してお祝いの場を設けていきたい。
- ・戴帽式の名前はまだ決めていないが、感動の場だけではなく、成長の一つの区切りの場として取り組んでいきたい。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>「各論実習」の前の2年生の秋に、一つの区切りとして行うことはよいことだと思う。ナイチンゲール誓詞と自分の宣誓を言う「宣誓式」という形でやっているところもある。</p> <p>学生主体でやることで、自分で判断する力をトレーニングすることにもなる。時間数が増えたことで難しさもあると思うが、ぜひ成果を聞かせてほしい。</p>	<p>教える側が学生のレベルまで降りて、引き上げることが必要になってくる。</p> <p>「潜在的カリキュラム」については、授業以外の部分で、よりよい効果をもたらしているものを意図的に取り込んでいこうという考え方で、その一つが戴帽式になる。本校の教育の3本柱であるTPCの育成の面でも、潜在的カリキュラムを有効に活用し、学生たちの底上げにつながる教育をしていきたい。</p>

以上